

欧州ケミカル事業強化

独に事務所、2拠点体制

森 六

森六はケミカル事業で欧州戦略を強化する。この5月にドイツのデュッセルドルフに駐在員事務所を開設、現在保有するオーストリア（ウィーン）の現地法人と合わせて2拠点体制とすることで、自動車、電気・電子材料、医薬品中間体の3分野に注力し、これに関連する商材・サービスの提案・販売に力を注いでいく方針だ。

車・電材・医薬品中間体に力

森六はケミカル事業において、2007年にオーストリアに現地法人を設立し欧州に進出した。これまで同所を基点として、日本を含むアジアとの間で医薬品中間体をはじめとする化学品や樹脂原料およびその添加剤の

3分野を中心に輸出入を行い、同市場の開拓を進めてきた。その結果、ドイツを中心にフランスやイタリア、スペインなど西欧でのビジネスが増加した。ただ中欧、東欧への展開に関しては一拠点では負

担が大きく、全EU（欧州連合）をカバーするところできなかったため、想定ほどの成果が上がっていないかった。今回、独デュッセルドルフに駐在員事務所を設け2拠点体制とすることによって、欧州全域をカバーしていく考え。今後の欧州展開では、とくに自動車、電気・電

子材料、医薬品中間体の3分野に注力する。自動車分野については、廃車からの有害物質削減やリサイクル率向上を狙いとする欧州のELV（エンド・オブ・ライフ・ピークル）規制に沿った樹脂

原料、バイオポリマーなど各種商材の情報提供を行うなど、グリーン商材への取り組みを強化していく。2拠点体制構築後も、これまで欧州市場で顧客に評価されてきた営業開発力や、小回りの利く営業スタイルを維持し、各商材の提案・販売を促進していく考えだ。ドイツの駐在員事務所に関しては、3～5年後をめどに現地法人化を目指す。